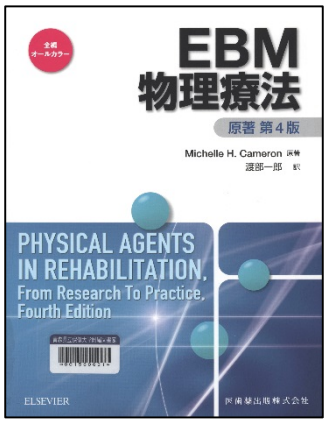
自著紹介 第2回



渡部一郎
エルゼビア・ジャパン，医歯薬出版
2015年9月
492.5||C14
図書館1階指定図書コーナー
および
図書館2階に配架しています

EBM物理療法 原著第4版

理学療法学科教授
渡部　一郎
ワタナベ　イチロウ

2003年6月に、本書EBM物理療法　″Physical agents in rehabilitation″　第1版の日本語翻訳書を出版し、米国・我が国ともに、臨床・教育・研究の場で好評を博し、今年9月、幸いにも第4版の日本語版を担当することになった。初版から日本語監訳を務めてきた私にとり光栄なことである。

原著の監修者Michelle. H. Cameronさんは、第3版までは理学療法士として執筆・監修されてきたが、同時期に医師の研修を受けられ、第4版では、神経内科医として診療される立場となり、病態生理学的にさらに充実したものとなった。

国内の、物理療法の成書は、機器別の適用法が中心であるが、本書では、炎症・組織修復・疼痛・筋トーヌス・可動域制限から脊柱やリンパ・血管系の病態生理学・障害学と物理療法の適用・効果を網羅し、国内では類をみない、新しいリハビリテーション医学書となった。

日本では超高齢化による医療費の高騰が課題である。物理療法を用いたリハビリテーション医療は、高額な検査・処置・薬や侵襲的医療に比べ低コストかつ安全であり、患者（利用者）自身が理解・判断し、自身が望む物理療法を選択できる可能性がある。わが国では、温泉医療や東洋医学などの物理療法も普及しており、QOL(生活の質)の高い健康寿命の延長に貢献することが期待される。